
過ぎ去りし日のおもひで

忌み人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

過ぎ去りし日のおもひで

【Nコード】

N0833H

【作者名】

忌み人

【あらすじ】

昔の無謀でやんちゃな思い出をお楽しみください。

昔から病気がちで入院する事が多くてさ

そのときも風邪をこじらせたかなんかで肺炎になって入院したんだろっ。

でもいつもの小児科病棟は患者がいっぱいってことで
内科病棟へ入院する事になったらしいんだ。

入院して点滴やら検査やらいっぱいされてただけどさ
ほら、熱がすごくてうなされるって言うの？

あんまり覚えてなかったんだけど、いつも眼が合う人がいたんだよね。

検査のときも、点滴のときも。

いつも笑っている感じで、こっちを見つめてる。
年は同じぐらいで髪型もよく似た短髪。

入院して2、3日で熱が下がってある程度元気になると
ベッドの上じつとしていらなくなり、その人を探してた。
その人は隣の部屋で、同じように病棟がふさがっていてこっちに入
院したらしい。

すぐに仲良くなってゲームを貸したり漫画を借りたりして遊んでた。

後姿もよく似てるらしくて、看護婦さんもよく間違えてた。

それで調子に乗った二人はたまにパジャマもベッドも替わって夜寝
たりして看護婦さんを困らせた。

そんなこんなで2週間程度で退院となったんだけど、せっかく仲良
くなっただんだからって

たまにせがんで連れてってもらってお見舞いにいった。

2ヶ月ぐらい過ぎた辺りかな

お見舞いに行ったら布団をかぶって泣いてる。

どうしたのか聞くと、家で飼っている犬が死んだそう。

でも、今は退院できないから死んだ犬に会えないって泣くんだ。

新しくできた友達にどうにか力になつてやれないか考えた。

それで考え付いたのは入れ替わる事だった。

ちよつと前まで看護婦さんも間違えてたくらいだし、今日はずっと布団の中にもつてて点滴もしてなかった。

ちよつと家に戻つて犬の顔を見たら戻つてくるからって事で話はついた。

パジャマと服を交換してお見舞いのお菓子とジュースを持って布団にこもる。

それを確認して外に出る。

しばらくして看護婦さんがやってきてなんか話をしていた。

「今日**だ、痛**の注**から、**くれる？」

何を言ってるか聞こえなかったので、そのままにしてたら、

布団の傍まで看護婦さんが寄ってきて、

「このままだと、痛くなっちゃうよ？さあ、腕を出して」

と言われたので、何か注射を打つんだなつてことは理解できた。

友達のためだと思い、黙って左手を出すと

「今日は左手でいいの？」

と言われ、何となくバレたような気がして左手をベッドに何回も叩きつけ、早くしろという意思を見せると

看護婦さんも「わかったわ。」と言ってくれた。

針を刺されたときに思わず声が出そうになるのを何とかこらえ、点滴が繋がった。

看護婦さんが部屋を出る間際に何か言つたが聞こえなかった。

そしてそのまま寝てしまった。

目が覚めるとベッドに寝かされてるのがわかった。

その瞬間バレたと思ったたら目の前に泣いてる親の顔。

その奥に困った顔の先生。

ぼうつとした意識の中でよかったよかったとだけ聞こえたのを覚えている。

打たれた点滴に痛み止めが結構な量入っていて、慣れていない人間にはすごくよく効いてしまっ

て呼吸が止まることもあるという。

いつまでたっても戻ってこないことを訝しげに思った親が病棟に

ベッドサイドにはいない 念のためにと布団を剥がしてみたら、息も絶え絶えの状態で発見されたらしい。

その後いろんな検査をされて、後遺症が無い事を確認してから取り調べが始まった。

そこからが大変だった。

まず、何であそこに寝ていたのかから問い詰められ

どうやって抜け出させたのかとか、いっぱい聞かれてそのたびに怒られた。

警察も来ていろいろ聞かれた。

友達がどこに行くといっただかとか。

友達は見つからなかった。

病院も警察も必死で探したけど見つからずじまいだった。

実際は家で犬が死んだどころか、この辺に家も無い事を知らされた。

あの時立っていたのは何でなのかわからないが、病院から抜け出したかったのかもしれない。

この狭い空間から広い世界に飛び出したかったのかもしれない。

そう思うと、正直に言ってくれればよかったのにといまでも時々思う。

結局友達は今も見つかっていない。

その後その病院で働いている人が教えてくれた。

20年以上前のホントのようなウソの話でした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0833h/>

過ぎ去りし日のおもひで

2010年10月28日04時40分発行